

ミレニアム開発目標(MDGs)と ポスト2015年開発アジェンダ

ミレニアム開発目標(MDGs)

◆ 2015年までの国際開発目標

- 「国連ミレニアム宣言」などを基に, 2001年に策定。
- 強み=単純・明快・期限付きの数値目標
 - 目標1: 極度の貧困と飢餓の撲滅
 - 目標2: 初等教育の完全普及の達成
 - 目標3: ジェンダー平等推進と女性の地位向上
 - 目標4: 乳幼児死亡率の削減
 - 目標5: 妊産婦の健康の改善
 - 目標6: HIV/エイズ, マラリア, その他の疾病のまん延の防止
 - 目標7: 環境の持続可能性確保
 - 目標8: 開発のためのグローバルなパートナーシップの推進

◆ 一定の成果。しかし, 引き続き課題は大きい。

- 特に教育・母子保健・衛生などは, 現状では達成困難。
- 地域ではサハラ以南のアフリカ, 南アジア, オセアニア(島嶼国)で達成に遅れ。

◆ 新たな課題への対応も必要に。

- 国内格差の拡大(MDGsはマクロ指標)
- 持続可能な開発の必要性(リオ+20)など

2015年より先の目標(=ポスト2015年開発アジェンダ)
策定に向けた国際的な議論が本格化

← 日本の強みを活かしつつ, 効果的な枠組みの
策定を主導し, 日本の国際プレゼンスを向上

ポスト2015年開発アジェンダの主要課題

- ◆ 現行MDGsを基礎とし、その経験と教訓を踏まえる。
 - 簡素・明快さを保つ。
 - 貧困撲滅を中心に持続可能な開発にも配慮。
⇒ 野心的かつ動員力のある目標策定を主導。
- ◆ MDGsで残された課題に引き続き取り組み、新たな課題に対処。
 - 地域格差, 国内格差の拡大に目を向ける。
 - 誰一人取り残さない人間の安全保障の理念に立脚すべき
⇒ 包摂性 (inclusiveness), 持続可能性 (sustainability), 強靱性 (resilience) を重視。
- ◆ 人間の安全保障の実現に資する個別分野を特に重視。
 - ジェンダー平等と女性の能力強化の推進。
 - 脆弱な個人を直撃し、開発の成果を水泡に帰させかねない自然災害に対処する, 防災。
 - 全ての人々が基礎的保健医療サービスを受けられる, ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC)。
⇒ 日本の知見を世界に共有。
- ◆ 成長・雇用に光を当てる。
 - 成長・雇用は富を創出する源。
 - 質の高い成長 (グリーン成長, 包摂的成長) を目指す。
⇒ 日本の技術の活用。
- ◆ 途上国自身の努力 (オーナーシップ) を推進する。
 - ガバナンス強化・途上国内の資源の動員の促進。
⇒ 開発効果の向上。脆弱国にも配慮。
- ◆ 新たなグローバル・パートナーシップの確立。
 - 民間セクターの関与。新興国, NGOなどの役割。
⇒ 全てのステークホルダーが協力。